



タイトル「**2017年度シラバス**」、フォルダ「**経済学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	特講(ビジネス統計)		
担当教員	中村 陽人		
対象学年	1年,2年	クラス	
講義室			
開講学期	後期		
曜日・時限	時間外	単位区分	選必
授業形態	通常講義	単位数	1
準備事項			
備考	〈BCP〉		
ナンバリング			
授業概要とねらい	<p>今やビジネスにおいてデータ分析（特に多変量解析）は必要不可欠なツールとなっています。この授業では、実践演習で学んだ統計学の基礎の理解を深めるとともに、多変量解析の手法を紹介し、データを用いて実際に分析を体感してもらいます。具体的には、2つの内容を扱います。1つ目は記述統計量と検定についてExcelの実習を通して理解を深めること、2つ目は統計分析ソフトRを用いて、多変量解析（回帰分析、クラスター分析、因子分析）を実践してみることです。</p>		
望ましい水準	<ul style="list-style-type: none"> Excelを用いて記述統計量や検定統計量を求めることができる。 Rの基本的な操作を行うことができる。 多変量解析が実務の世界でどのように使われるのかを理解している。 		
授業計画	<p><1日目></p> <ol style="list-style-type: none"> 記述統計量と検定統計量の算出（Excelの表計算機能） Rの基本的な使い方 <p><2日目></p> <ol style="list-style-type: none"> 回帰分析（分析の使用方法、Rで実習） 因子分析（分析の使用方法、Rで実習） クラスター分析（分析の使用方法、Rで実習） 		
教材・教科書	特定のテキストを使用せず、資料を配布します。		
参考図書	適宜、紹介します。		
参考URL	なし		
授業以外の学習	授業時間内に解説と実習を行ないますが、身につけるためには学んだことを繰り返し自分の力で再現することが重要です。そこで、別のデータを用いて授業で学んだ分析のプロセスを確認しながら再現する課題を与えます。この課題は授業時間外に取り組むことになります。		
成績評価の方法	授業と課題への取り組み、理解の程度で評価します。		
成績評価の基準	<p>A：望ましい水準となる知識や技術を正確に理解し、用いることができる。</p> <p>B：望ましい水準となる知識や技術を正確に理解している。</p> <p>C：望ましい水準となる知識や技術の基本を理解している。</p> <p>D：望ましい水準となる知識や技術の理解に一部不十分なところがあるものの、概ね基本を理解している。</p> <p>F：基準Dが満たせていない。</p> <p>【出席率】 総授業時間に占める欠席時間が20%（2時間半）を超えるとF評価です。20%に達しなくても、欠席・遅刻・早退が度重なれば評価に影響します。また、病気や仕事も欠席扱いです（病気の際は無理せず休み、次年度に履修してください。なお、学習案内記載の「学校保健安全法の規定に基づく該当感染症」の場合は登校が禁止されています）。公共交通機関（鉄道、バス）の突発事故による欠席・遅刻の場合は、証明書を用意してください。</p>		
オフィスアワー	授業終了後に対応します。		
留意点・注意事項	必ず実践演習を履修してください。実践演習の内容を前提とした授業を行います。		

その他	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け1	経済学研究科のディプロマポリシー／高度の専門的知識（経済学研究科Ⅰ）
カリキュラムにおける当該科目の位置付け2	経済学研究科のディプロマポリシー／応用力・実践力（経済学研究科Ⅱ）
カリキュラムにおける当該科目の位置付け3	経済学研究科のディプロマポリシー／研究遂行能力（経済学研究科Ⅲ）
カリキュラムにおける当該科目の位置付け4	経済学研究科のディプロマポリシー／論理的思考力・分析力・表現力（経済学研究科Ⅳ）
カリキュラムにおける当該科目の位置付け5	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け6	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け7	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け8	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け9	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け10	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け他	



Copyright (c) 2004-2011 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.